指導計画案

展開	指導上の重点目標	学習活動	指導上の留意点
導入	1 タイトルの言葉の印象から、ストーリー展開を予想させる。 2 表現上の特徴に注意しながら、文章を味わわせる。	①「離さない」というタイトルから、ストーリーを想像する。 ②擬音語、擬態語、比喩表現などの表現の特徴を捉えながら、全文を通読する。知技・思判表 ③初読の感想や疑問などをまとめる。	①「導入の問い」を参照。「離さない」という言葉が持つ印象や言葉の力の強さを感じさせたい。「離さない」のほか、「離れられない」「離せない」など、それぞれの言葉の持つ印象についても考えさせる。 ②学習者の実態に応じて、指名音読か、範読かなどを判断する。特徴的な擬音語、擬態語などについて適宜説明する必要があるが、日常のなかで静かに進む異常事態を読み味わうため、あえて演出を避け、淡々と読みたい。 ③現代が舞台でありながら、寓話的、幻想的な物語である。多くの学習者は通読後、戸惑いがあることが予想されるが、そのような戸惑いや疑問をそのまま受けとめて感想をまとめさせる。
展開 1	1 作者独特の表現を理解させる。 2 それぞれの登場人物の描写方法の違いをふまえ、人物像を捉えさせる。 3 エノモトさんと人魚の関わり方から、エノモトさんの心情を捉えさせる。 4 「わたし」と人魚の関わり方から、わたしの心情を捉えさせる。	①〈第一段〉（初め～二四四・上16） ②①「わたし」とエノモトさんの関係を理解する。思判表 ②桜や花びらの描写にどのような効果があるか考える。知技	①特別に親密ではないが、気軽に部屋の往来があるという微妙な関係性を理解させ、どのような仲の人が、秘密や執着の共有相手になるのか考えさせる。 ②人魚と桜の関係は、全体の構成を踏まえたうえで様々に解釈できる。ここでは桜の象徴や日本文化などには触れず、物語上での印象を相談させる程度に留めたい。
展開 2		①〈第二段〉（二四四・上18～二四五・下3） 人魚の描写に注目し、その表現効果を理解する。知技	①エノモトさんの外見描写がほとんどない一方で、人魚は詳細に描写されているという違いに注目させる。人魚がリアルに描かれる表現効果として、物語世界が幻想的でありながらも、現実世界の延長として読者が想像することを理解させる。
展開 3		①〈第三段〉（二四五・下5～二四九・上14） エノモトさんの描写の変化から、人魚への執着を理解する。思判表 ②「わたし」の言葉遣いや態度から、人魚に対する心情の変化を理解する。思判表	①エノモトさんの様子の変化に注目させる。人魚を紹介したり、説明をしたりする場面と、「わたし」に預けてから部屋を走り出す場面での違いを理解させる。 ②エノモトさんの描写の変化と共に、「わたし」の様子や心情にも注目させる。人魚に執着するエノモトさんと対照的に描かれる部分や、無意識のうちに人魚に魅了されていく部分を丁寧に読み取り、第四段への橋渡しの段落であることを理解させる。

時限	展開		まとめと発展
指導上の重点目標	5　「わたし」とエノモトさんの人魚への執着と恐怖を捉えさせる。 6　「わたし」とエノモトさんにとって人魚がどのような存在だったのかを考えさせる。		1　作品の寓意や表現効果について考えさせる。 2　日常の読書に進展させる。
学習活動	① 〈第四段〉（二四九・上16～二五一・上12） 人魚から離れられなくなっていく「わたし」と、エノモトさんの葛藤状態を理解する。思判表 〈第五段〉（二五一・上14～二五三・下15） 人魚を海に帰すまでの心情と、「離さない」という言葉の意味を理解する。思判表	① 〈第六段〉（二五四・上1～終わり） 「わたし」とエノモトさんにとって人魚とは何か考える。主態	①　タイトルの意味や、桜の描写と効果について考える。主態 ②　作者の他の作品を紹介し合い、読書につなげる。思判表
指導上の留意点	① 「わたし」の様子の変化に注目させる。またエノモトさんが人魚を海に帰すために迎えに来る場面では、前段と逆の立場になっていることに注意させる。その際、エノモトさんの言動と心情が全く同じではないことを理解させる。 ① 「わたし」とエノモトさんの言動を比較してまとめさせる。それまで「離れられない」と思っていた「わたし」が、人魚に「離さない」と言われて逃げ出したのはなぜか考えさせ、ここでは主客の入れ替わりが恐怖の内容であったことを理解させる。	① 人魚とは、自己を喪失してまでも共に在りたいと願う、あるいは無意識に感じる執着の対象であり、人が何かに魅了され執着する在り方がこの作品の主題の一つであることを理解させる。自己を惹きつけるものがあったかどうか体験を振り返ったり、人間の性質としての執着を想像させたりする。	①　主体として「離さない」ために強さが必要であるなど、本文を根拠に考えさせる。夢オチとも読める桜の意味や効果については、全体の内容を踏まえた上で考えさせる。 ②　短編集「神様」の作品を中心に、その他作者の作品や、映像化された作品なども紹介し、メディアミックスやアダプテーションの話題にも触れたい。教室の外での読書体験を改めて教室で共有するような指導も積極的に行いたい。